



生みの親といっしょに  
よりよい育ての親に

わたしを きゅっとして  
わたしを 見つめて  
わたしを 聞いて  
わたしを 呼んで

〔 生命の誕生・入園・進級・卒園・入学 〕  
～改めてスタートすること、それを人生の節目と言う～

私は人間教育の中で狭い領域の「保育」という世界に関わりを持ち始めて50有余年になります。それらを含めてこの私の長い人生の歴史をふり返って見た時、今のこの私を創り上げてくれたのは1969年(昭和44年)に開園された茨城にあるA学園という定員60名 重度児20名、軽度児40名の知的障害児(当時は精神薄弱児)と言われていた施設でした。全国で初めての鍵のないオープンな重度棟の施設を仲間たちと共に覚悟をもって運営して障害児の解析と治療教育(療育)に取り組んできたことを今も誇りに思っています。

この時代に私が子どもたちの家庭訪問を通して教えられたことは、すべての子どもたち、本当にすべての子どもたちが家の中に閉じこめられた生活をしてきたことでした。今風にして考えれば障害児に対する偏見や人権に対して社会的価値観が貧しく、その家庭や子どもに対して『現代の貧困「1. 経済的な貧困、2. 関係性の貧困、3. 経験の貧困」』等のすべてがのしかかり、「環境不遇による精神遅滞」が絵に描いたような養育環境でした。

だから私たち(社福)童心会の保育(人間教育)の基本的考え方は「五感を刺激する0歳からの人間教育」になったのです。そしてそれを裏付けるご本が翻訳者の掛札逸美先生から贈られてきたのです。

保育も子育ても新しく！21世紀の証拠に基づく  
「子ども育て」の本 (K.Kぎょうせい)

私たち(社福)童心会もこのご本の研究論文に書かれているように「赤ちゃんは生まれてすぐから、おしゃべりが大好きなのです。」という言葉の通り、新生児が生まれて10分もたたないうちに助産婦さんに連れられてきた子どもが”表情、仕草、態度、目の動き、天使のほほえみ”などでお話しをはじめていることを実践経験、体験を通してたくさんの方々からお話しをお聞きしてきました。(私たちはそれを”Serve & return・やりとり・受けこたえ”から始まると解釈してきました)



笑ったかす一番    だっこされたかす一番    やさしくされたかす一番  
遊んだかす一番    でかけたかす一番    チャレンジしたかす一番



E-mail [doushinkai@doushinkai.jp](mailto:doushinkai@doushinkai.jp)    URL <http://doushinkai.jp>



また私たちの実行体験では”テラスの教室”を通して  
0歳からの仲間たちや3、4、5歳児と0歳児との非言語コミュニケーションを楽しんでいる姿をたくさん見てきました。  
そして私たち(社福)童心会の考える”人の成り立ちの歩みのはじめ”を次のように考え実践してきたのです。

### 〔 人間教育のはじめ 〕

#### ～ 五感を刺激する 0歳からの人間教育 ～

見て 倣い 観せて 学び  
聞いて 考え 聴かせて 習う  
触れて 知って 触って 記憶する  
風に香りを嗅ぎ  
五味 五色 五感で 四季を味わう

改めてふり返って見ますと私たちの子育ては、歴史的に見ても親や乳母、養育者やご近所の大人たちが  
何も分からない言葉も持たない乳幼児の世話をすることから始まったような気がします。

しかし2001年、OECDから発表された「保育白書ECEC(Early Childhood Education and Care)」の中で  
次のように発表されたのです。

「近年の脳神経科学の研究により、幼い子ども、特に3歳未満の人生の最初期にある子どもは、有能な学習者であることが確かとなった。  
3歳未満児とそれより年長の子どもの学習能力を分別するのは、伝統や大人の都合であり、科学的根拠に基づくものではない」

幸いに私はたくさんの人に導かれ、冒頭にも書かせて頂きましたが、「環境不遇による発達障害児」の存在が  
私の人間教育の恩師のような気がして感謝の心が尽きないのです。  
だから私はこの仕事に余命を掛けているのです。

また続けてOECDは「保育白書ECEC」の中で次のように言っていました。  
「Education」を「Care」の前に置いたのは、子どもが発達し教育を受ける権利を、乳幼児のために優先すべきもの  
とみなしたから、だから乳幼児期、すなわち学習の基礎ステージが最も重要だとも言っていました。

しかし私たちは、この理論が理解される以前から実践体験を通して子ども達の人生の節目、  
「生命の誕生・入園・進級・卒園・入学」を通して  
”ヒトの成り立ちの歩みのはじめ”から次のようなことを学び続けてきたのです。

### 〔 人間としての生きる習慣(礼儀) 〕

- 笑顔・挨拶・思いやり(慈悲)・感謝(ありがとうの心)

### 〔 人間としての生きる心得 〕

- 興味・関心・好奇心(生きるを楽しめ)

### 〔 人間としての生きる姿勢 〕

- やる気(意欲)げん気(気力)ほん気(意志)  
(やる気・げん気・ほん気が生まれた運動会)

### 〔 人間としての生きる態度 〕

#### ～ 自分を創る・人を創る(人として如何に生きるべきか) ～

- がんばること(体の力) ◦ つづけること(学ぶ力) ◦ がまんすること(心の力)

### 〔 agency(主体・自我)の成り立ちの基盤(serve & return) 〕

#### ～ 人格・人間性・人生観・主体(自分らしさ)を創る ～

- 赤ちゃんが 見ている方向が変わったら応える (Serve & return)
- 赤ちゃんが ものに対して何かをしていたら応える (Serve & return)
- 赤ちゃんが 模倣をする (Serve & return)
- 赤ちゃんが 自分で何かすることを励ます (Serve & return)
- 赤ちゃんの 考えや感情(mind)にあった話しかけをする (Serve & return)

最後に私がこの3月の”人生の旅立ち”の日に送りたい言葉は、  
ライフスタイル(人生のあり方・生き方)やアイデンティティ(identity その人らしさ・主体性)の基盤は  
10歳頃までに創られるものと考えられている、ということです。  
だから「人生とは、あなたの生き方や考え方から自分自身の人生が創られるもの」だと考え直してほしいのです。  
子どもたちは毎日毎日を仲間たちや保育者仲間たち、保護者の皆さまや子育て仲間の皆さまと共に  
人間としての”生き方”を学びながら歩んできたことを忘れないでほしいという願いと祈りをこめて伝えたいのです。  
だから私たち(社福)童心会のactive learningは次のようになりました。

〔 一人ひとりが 課題を見つけ 自ら考え 自ら学び 一日一生を生きる 〕

今日もまた一日一生を念じながら  
すべての仲間たちのWell-being”幸せになろうね！幸せになろうよ！”と祈り願い続けていくつもりです。  
どうぞ いつまでも お幸せに！！

令和7年 3月 吉日  
社会福祉法人 童心会  
理事長 中山 勲